

戦争する国にするな！

日本共産党都議団が「集団的自衛権の行使容認をみとめない」意見書を提案



受けていないのに、他国防衛を理由に海外での武力行使を認める

日本共産党都議団は、六月都議会
で、東京都議会が、「憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認を行わないことに関

する意見書」を採択するように提案しました。
提案した意見書案は「集団的自衛権とは我が国が武力攻撃を

ものであること、これは「戦争しない国であり続けてきた我が国が、海外で戦争できる国に大きく変わり、憲法第九

条の平和原則に反する」と、さらに、政府が憲法解釈の変更を閣議決定することには憲法により国家権力の乱用に歯止めをかけるという立憲主義の否定に他ならない」ことを述べて、東京都議会が国会と政府に対して「憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使容認を行わないように強く要請する」という内容です。

和泉なおみ



昨年6月に都議会に送って
いただいたから1年がたち
ました。17人に増えた日
本共産党都議団の一員と
して、無我夢中で葛飾の
皆さんの願いを都政に届
けてきました。

猪瀬前都知事の裏献金疑
惑や、女性蔑視やじ問題
等、慢心と驕りによって
起こった一連の不祥事は
、都民のくらしの厳しさ
と向き合っていないこと
の表れだと思います。

憲法の解釈を変えて武力
行使の道を歩みだし、消
費税のさらなる増税や社
会保障改悪で国民の暮ら
しをおびやかす安倍政権
の暴走と、正面から対決
する日本共産党の役割は
ますます重要です。都議
会議員として、その先頭
に立つ決意新たに、この
パンフをお届けします。

ぜひ、お読みいただき、
ご意見をお寄せください。



水防訓練に参加しました(14.5.14 柴又)



しかし、七月一日に安倍
内閣は閣議決定を強行し
、この問題はますます重
要な局面を迎え国民的関
心が一気に高まっています。



くらし・福祉の都政めざして

日本共産党都議会議員の一年

和泉なおみ



(都政へのご意見、ご要望をお寄せください)



所属委員会の

しごとは「都民の福祉・医療の充実！」

和泉なおみ都議の委員会所属は、都議会厚生委員会です。東京都の福祉保健局と病院経営本部が所管する事業の審議にあたります。

「都政は、都民のくらし・福祉を中心に」と、都議選でかけた公約を
実践するにふさわしい舞台を得て、和泉なおみ都議は大はりきり。

都議会厚生委員会議事録をみると14名いる厚生委員会所属の都議
のなかで、発言回数は断然トップです。

都民のねがいを一歩でも前進させようと、その発言は、多彩です。
その一部を紹介します。

日本共産党都議団報告 2014.8

葛飾版 発行：日本共産党東京都議会議員団
新宿区西新宿 2-8-1 ☎(5320)7270

初の本会議質問—論戦と提案 都議会に新風を吹き込む

和泉なおみ都議は、今年3月5日、都議会本会議で、初の一般質問を行いました。とりあげたテーマは、いずれも子ども・若者・公害患者をめぐる切実な問題で、舛添都知事が厚生労働大臣であった時の国会答弁を引用して都の見解をたずね一方、社会保険労務士である都議として、高校生のために具体的提案を行うなど、都議会に新風を吹き込みました。



都議会本会議初質問 (14/3/5)

ぜんそく患者への医療費助成制度は、東京大気汚染訴訟での東京高裁の和解勧告を受けて二〇〇八年につくられたものですが、五年目の和解条項の見直しで、自動車メーカーが財源負担を打ち切ることにあわせて、都も患者の新規認定を打ち切り、医療費も患者が二割負担とする方向を打ち出しました。

和泉都議は、患者さんたちが、制度を今のまま継続してほしいと、冬の寒風のなか連日、都庁前で座り込みをして訴えていることを紹介し、舛添知事が厚生労働大臣だった時に国会で、自身がぜんそくであり、その苦しさをよく知っていることと答弁していることをあげながら、患者たちの訴えをどのように受け止めるかとただしました。

しかし、舛添知事の答弁は、「五年目の見直しは、最初から患者団体側も了解していたことであり、自動車メーカーが、さらなる財源支出は困難という以上、無理です」という冷たいものでした。

**ぜんそく患者への医療費助成
制度を変えずに継続すべきだ**

二元大気汚染訴訟原告の
森倉次郎さん(62)

和泉なおみ議員は、苦しんでいる患者の気持ちをよく把握して質問してくれた。舛添知事は、患者の気持ちをわかっていない、血も涙もない答弁に怒りがこみあげました。



放射能から子どもたちを守れ

葛飾区は三年前の福島原発事故以来の放射線量が区内でもっとも高く検出され、多くの親子から子どもの健康への影響を心配されています。しかし、同じ問題をかかえる千葉県や茨城県とくらべて東京都の対応に熱意がないのが、特徴的です。

和泉なおみ都議は、都議になる以前から測定運動にとりくみ、都に水元公園の一部の除染を実施させましたが、都議会では、厚生委員会でも本会議でもこの問題をとりあげ、都に対応をせまりました。

厚生委員会では
(2013.11.21)

特別区長会も要望している。こどもの健康調査を行う区市町村に都が補助を行うべきだ。

本会議では
(2014.3.)

都がみずから水元公園や都立学校などの放射線調査をして対策をとるべきだ。

和泉なおみ都議は、ひきつづき、この問題を風化させないため、現在も「葛飾青空の会」や「子どもと区民を放射能から守る葛飾連絡会」の人々と共同して、区内 1000 か所測定運動を取り組んでいます。



日本共産党都議団の調査で都有地で初の除染(水元公園)

子どもと区民を放射能から守る葛飾連絡会

山本康子さん談

原発事故から3年。いまだに区内で放射線量の高い地点が見つかります。

特に都営住宅、都立高校、水元公園など子供にかかわりの深い都有地の除染を急がなくてはなりません。汚染はないという東京都のかたくなな姿勢を変え線量測定・除染を実現し安心して住める葛飾を取り戻したいです。和泉さんの力に期待しています。



区に除染を申し入れる山本さん

和泉なおみ都議の初仕事は

「認可保育所建設の用地費補助条例」の提案説明

認可保育園に申し込んで入れなかった子どもが、二万人を超えるという待機児の解決は、東京の最もさしせまった課題のひとつです。日本共産党都議団は、昨年の都議選のあとに開かれた最初の議会である第三回定例会で議員提案条例として「保育所建設の用地費を補助する条例」を提出しました。

和泉なおみ都議の初仕事は、厚生委員会でのこの条例の提案説明をおこなうことでした。

残念ながら、この条例は、自民、公明、民主などの反対で実現しませんでした。不足する認可保育園の増設の動きを強める一石となりました。



こんな問題を

とりあげてきました。

1、障害児通所支援事業所をもっと増やして

高齢者のための小規模多機能施設に障害児も入れてもよいとする条例改正に対して、障害児のための施設自体をもっと増やすべきと主張。

2、在宅療養支援病床をひろげて

在宅療養している人の病状が急変したとき、かかりつけ医の依頼で受け入れる病床を、東京都健康長寿医療センター（旧養育院）だけでなく他の病院にも広げるよう要望。

3、生活保護法の改悪に反対する立場で国に意見を！

国の法改正案が生活保護申請のハードルを厳しくしたことを批判。「現在でも保護を受ける権利がある人が窓口で申請拒否されている例があり、こうしたことを改めるべきと主張（都民の請願にこたえて）。

4、保険医療公社東部地域病院（亀有）に都はもつと支援を

大腸がんだけでなく肺がんや胃がんについて「部位別がん診療連携協力病院」の認定がうけられるように都は財政も含めて支援を強化するように要請。

5、小児総合医療センターの医療チームの一員としてファシリテーター・ドッグの導入を

ファシリテーター・ドッグは癒しの提供や治療にかかわる活動を行うための専門的なトレーニングを受けた犬のことで、静岡県立こども病院、神奈川県立こども医療センターに導入されている。和泉都議は神奈川県を視察調査した経験を紹介しつつ都も取り入れるべきと強く要望した。

6、学童保育クラブを増やして待機児童をなくせ

学童保育クラブを増やすために都は区市町村に対して補助率や補助単価の引き下げなどに先駆けて積極的対策をとるよう要望。

7、葛飾通勤寮（障がい者）他六ヶ所の施設の都立を維持して

そこに働く人も入所者も安心して利用できる施設の運営に都が責任を持つべきであり、民間委譲計画を撤回するよう要望。

8、コミュニティバスへの補助を拡充すべきだ

日本共産党都議団が都内全区市町村に対してアンケートを行った内容にもとづき、運行費補助の年限の撤廃、補助率の引き上げ、車両購入費補助の条件緩和などをもとめた。

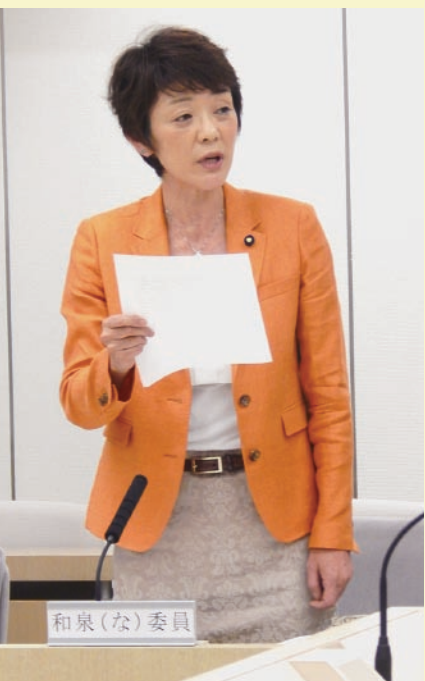
9、都立病院医師の勤務体制を改善せよ

都立墨東病院の医師の宿日直体制

10、都は国民健康保険に財政支援をよめよ

広島高裁が、ふりこまれた児童手当を国保料として差し押さえたことは「違法」と判決したことを引用して、東京でも増えている差し押さえのあり方に警告するとともに、「払える保険料」にするために都が積極的に国民健康保険に財政支援することをもとめました。

厚生委員会議事録から（2013.9.2014.3）



都議会厚生委員会にて 2014.6.6

いを都議会につなぐ

和泉なおみ都議の議会活動は、さまざまな住民運動と結びついていることに、特徴があります。そこから、だれもが安心してくらせる街づくりへ、成果が生まれています。

慈恵医科大葛飾医療センター がん放射線治療再開へ

青戸の慈恵医大病院の建替えにもなつて、一時、廃止されていたがんの放射線治療が再開されることになりました。これは、和泉なおみ都議が、都議になる以前から同病院の患者さんたちとともにつくった「放射線がん治療を残す会」の責任者として、署名運動の先頭にたち、大学当局とも交渉を重ねてきた



慈恵医大葛飾医療センター前（矢印が、放射線棟工事のクレーン）

ことが、実ったものです。おりしも、慈恵医科大学が、葛飾区を通じて再開を伝えてきたのは、和泉なおみ都議が都議会厚生委員会で、東京のなかで区部東北部医療圏（葛飾・足立・荒川）のがん治療体制がとれていることをとりあげ質疑を行った翌日のことでした。その後、和泉なおみ都議は、あらためて慈恵医大本院を訪問し、二〇一五年度中に、放射線治療を再開することの回答を得ました。



がん患者と家族の会
林順子さん談

六年前、慈恵医大青戸病院は建替えを機に放射線治療を廃止する予定でした。患者にとっては寝耳に水です。

私たちは、「放射線治療を残す会」とともに継続を訴えました。

和泉なおみさんは、区民の命を守るため、署名のときは先頭に立ち、都、区、慈恵医大にも粘り強く訴え続けた結果、運動が実を結びました。



和泉都議と一緒に慈恵医大本院で話を聞く林さん（左）

働く若者が犠牲にならないように 社会保険労務士の活用を

和泉なおみ都議は、質問で「私自身も社会保険労務士です。」と自己紹介しつつ「高校生が労働法はもち

ろん、健康保険や年金・雇用保険などの知識を習得し、社会に出る機会を準備するために、都立高校で社会保険労務士を講師として活用することが重要ではないか」と提案しました。

また、都の指定管理者が受託している企業の現場で、働く人が犠牲にならないよう、管理者運営状況の評価委員に社会保険労務士を導入する必要があるのでないかとも、提案しました。

これに対し都側は、「雇用と労働問題、社会保障などについての学習での社会保険労務士などの活用事例



社会保険労務士
村澤詩子さん談

和泉なおみ都議は、葛飾区内で放射線量が高い所がないか、いつも線量計を持ち歩き、ご自身でホットスポットの存在を明らかにし、ついに除染を実現されました。

先生の信念と行動力にいつも感銘を受けております。

都議であり、同じ葛飾支部の先輩社労士であり、また同じ女性で、妻であり、母である和泉先生を尊敬し、これからも応援し続けます！

を校長連絡会や進路指導研修会などで伝えてまいりたい」「指定管理者の運営や評価を行うに当たっては、専門家の治験を活用し、適正な労働環境の確保に努めてまいります」と答えました。



樋口亮さん談
(東新小岩在住 26歳)

今、若者の働き方はこれ以上ないほど深刻です。友達も、低賃金・長時間労働を強いられています。私たちは、労働法を学ぶ機会がほとんどないまま社会にでています。和泉さんの提案は絶対実現してほしいです。



都議会厚生委員会としてドクターヘリの調査をする